

観光社会資本の事例

テーマ	利根川の歴史と自然が会う横利根閘門ふれあい公園		
【施設の状況写真】			
			
重要文化財に指定されている横利根閘門の両岸に整備された公園。春は桜が美しいです。		既存の樹木を生かした公園は、水と緑、歴史に触れながらゆったりと憩える空間となっています。	
【施設の利用写真】			
			
公園には利根川の歴史、閘門の仕組みや役割等を学ぶ見学者も訪れます。		威容を一望できる展望広場は、舟の航行を見るのも楽しく、散策する市民も多いです。	
【観光資源としての利用状況】			
<p>既存樹木を保存活用しつつ、閘門にあわせて大正期に見られた西洋風のイメージをデザイン基調とした公園は、市民の憩いの場としてはもちろん、観光に訪れても楽しい施設になっています。重要文化財に指定されている閘門はヨーロッパの運河を思わせる重厚なレンガ造りで、近代の土木遺産として見ごたえがあります。大正10年に完成以来80年以上を経た現在も稼動しており、両側の扉を交互に開いて水位を調整しながら舟を航行させる姿はたいへん興味深いものがあり、思わず見入ってしまいます。</p>			

テーマ	利根川の歴史と自然が会う横利根閘門ふれあい公園
【社会資本の基礎データ】	
名称	横利根閘門ふれあい公園
所在地	茨城県稲敷市西代、千葉県香取市佐原二
事業名	横利根閘門公園整備事業
事業主体	国土交通省利根川下流河川事務所
事業期間	平成7年度～平成11年度
【社会資本の役割・効果】	
<p>横利根閘門は、洪水が霞ヶ浦へ逆流しないように、また増水時でも船舶の航行が可能のように、大正3年(1914)から約7年の大工事の末、大正10年に完成した閘門であり、横利根川や霞ヶ浦沿岸地域の治水、及び利根川流域の水運の発達に大きな貢献をし、現在も船舶の航行のために利用されています。</p>	
<p>横利根閘門は、80年以上経った現在でも利用されている我が国最大級の規模を持つ煉瓦造複閘式閘門で、利根川の明治改修工事におけるシンボリックな施設です。また、我が国における土木技術史上、煉瓦造閘門のひとつの到達点を示す近代化遺産としての価値により、平成12年5月に重要文化財に指定されました。</p>	
<p>公園は、閘門の重要文化財指定に合わせて整備され、市民が憩いながら気軽に見学できる施設になっています。</p>	
【位置図】	
	
【関連ホームページ】	
国土交通省利根川下流河川事務所のホームページ http://www.ktr.mlit.go.jp/tonege	
旧佐原市のホームページ http://www.city.sawara.chiba.jp	
稲敷市のホームページ http://www.city.inashiki.lg.jp	